

# 平成26年度 病害虫発生予察情報

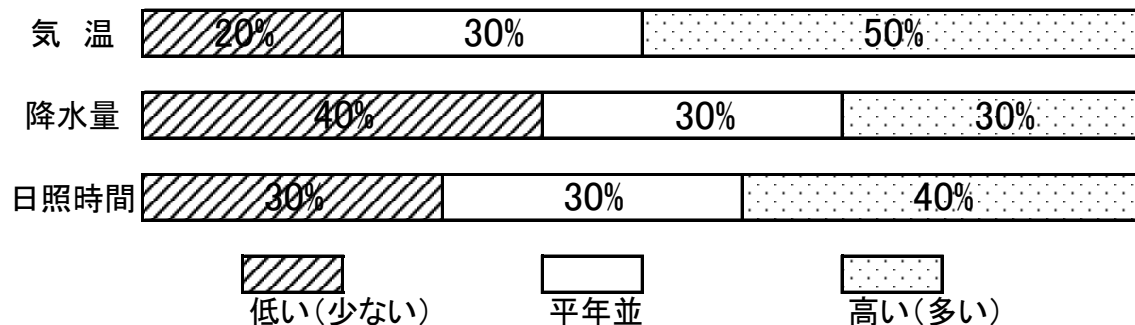
## 発生予報 第1号（4月）

平成26年 4月 2日  
島 根 県

### 予報の概要

区分	農作物名	病害虫名	予想発生量
普通作物	ムギ	さび病類	平年並
		赤かび病	平年並
		うどんこ病	平年並～やや少ない
果樹	イネ	イネスズウムシ	やや少ない
	ナシ	黒斑病	やや多い
野菜	タマネギ	ハダニ類	平年並
		ボトリチス属菌による葉枯れ	少ない
		白色疫病	少ない
	イチゴ	べと病	やや少ない
		腐敗病・軟腐病	やや少ない
		さび病	平年並
		灰色かび病	平年並
	アブラムシ類	平年並～やや多い	
	ハダニ類	やや多い	

中国地方1か月予報(3月29日～4月28日・広島地方気象台3月27日発表)  
＜向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)＞



### A. 普通作物

#### 1) ムギ

##### (1) さび病類

###### 予報内容

発生地方 県内全域  
発生時期 平年並  
発生量 平年並

###### 予報の根拠

- ①現在、発生を認めていない（過去10年のうち、3月末の発生は平成20年のみ）。
- ②ムギの生育はほぼ平年並みである。
- ③4月の気象は本病の発生にやや助長的である。

##### (2) 赤かび病

###### 予報内容

発生地方 県内全域  
発生量 平年並

###### 予報の根拠

- ①ムギの生育はほぼ平年並みである。
- ②4月の気象は本病の発生を特に助長する要因とはならない。

(3) うどんこ病

予報内容

発生地方 県内全域  
発生量 平年並～やや少ない

予報の根拠

- ①現在、発生を認めていない（平成4年以降、3月末の発生は未確認）。また、近年の発生量は少ない。
- ②ムギの生育はほぼ平年並みである。
- ③4月の気象は本病の発生にやや抑制的である。

2) イネ

(1) イネミズゾウムシ

予報内容

発生地方 県内全域  
発生時期 平年並  
発生量 やや少ない

予報の根拠

- ①前年の新成虫発生量はやや少なく（平年比43%）、本年の越冬量は平年に比べてやや少ないと考えられる。
- ②4月の気象は本種の発生を特に助長する要因とはならない。

B. 果樹

1) ナシ

(1) 黒斑病

予報内容

発生地方 県内二十世紀栽培地帯  
発生時期 やや早い  
発生量 やや多い

予報の根拠

- ①前年の発生量は平年に比べて多い。
- ②ナシの生育進度は平年と比べてやや早い。
- ③4月の気象は本病の発生に抑制的である。

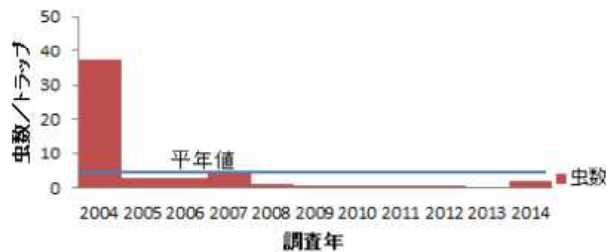
(2) ハダニ類

予報内容

発生地方 県内ナシ栽培地帯  
発生量 平年並

予報の根拠

- ①誘殺バンドによる越冬調査ではカンザワハダニの発生園率は25.0%（平年35.1%）、平均越冬虫数は1.7頭/バンド（平年3.7頭/バンド）と平年並みである。
- ②4月の気象は本種の発生にやや助長的である。



バンドトラップにおけるハダニ類越冬虫の捕獲数の推移

C. 野菜

1) タマネギ

(1) ボトリチス属菌による葉枯れ

予報内容

発生地方 県内全域  
発生量 少ない

予報の根拠

- ① 3月下旬の巡回調査で、発生を認めていない。
- ② 4月の気象は本病の発生を特に助長する要因とはならない。

(2) 白色疫病

予報内容

発生地方 県内全域  
発生量 少ない

予報の根拠

- ① 3月下旬の発生量は、平年と比べて少ない。
- ② 4月の気象は本病の発生を特に助長する要因とはならない。

(3) べと病

予報内容

発生地方 県内全域  
発生量 やや少ない

予報の根拠

- ① 3月下旬の越年罹病株の発生量は、発生圃場率が20.0%（平年22.1%）、1万本当たりの発病株数は0.9本（平年3.9本）と平年に比べてやや少ない。
- ② 4月の気象は本病の発生を特に助長する要因とはならない。

(4) 腐敗病・軟腐病

予報内容

発生地方 県内全域  
発生量 やや少ない

予報の根拠

- ① 3月下旬の発生量は、発生圃場率が6.7%（平年17.7%）、発病株率は0.24%（平年0.6%）と平年に比べてやや少ない。
- ② 4月の気象は本病の発生を特に助長する要因とはならない。

(5) さび病

予報内容

発生地方 県内全域  
発生量 平年並

予報の根拠

- ① 3月下旬の巡回調査で、発生を認めていない。
- ② 4月の気象は本病の発生を特に助長する要因とはならない。

2) イチゴ

(1) 灰色かび病

予報内容

発生地方 県内全域  
発生量 平年並

予報の根拠

- ① 3月下旬の発生量は、発病葉率が1.4%（平年0.4%）、発病果梗率は0.1%（平年0.1%）と平年並みである。
- ② 4月の気象は本病の発生を特に助長する要因とはならない。

(2) アブラムシ類（ワタアブラムシなど）

予報内容

発生地方 県内全域  
発生量 平年並～やや多い

予報の根拠

- ① 3月下旬の発生量は、発生圃場率が33.3%（平年21.2%）、寄生株率は2.8%（平年2.1%）とほぼ平年並みである。
- ② 4月の気象は本種の発生にやや助長的である。

(3) ハダニ類（ナミハダニなど）

予報内容

発生地方 県内全域  
発生量 やや多い

予報の根拠

- ① 3月下旬の発生量は、発生圃場率が55.6%（平年44.4%）、寄生株率は32.8%（平年13.8%）と平年並～やや多い。
- ② 4月の気象は本種の発生にやや助長的である。

【参考となる事項】

1) 用語の基準と使用法

(1) 平年値

病害虫の発生時期、発生量は過去10年の平均とします。

(2) 平年値との比較

発生時期：平年値からの差を5段階で評価します。

早い	やや早い	平年並	やや遅い	遅い
6日以上早い	3～5日早い	平年値を中心として 前後2日以内	3～5日遅い	6日以上遅い

発生量：発生密度や発生面積の平年値からの差を5段階で評価します。

少ない	やや少ない	平年並	やや多い	多い
外側10%の入る幅	外側20%の入る幅	平年値を中心として 40%の度数の入る幅	外側20%の入る幅	外側10%の入る幅

2) 病害虫防除所ホームページには、予察情報のほか、技術情報や各種のグラフ、写真を掲載しています。

防除所のアドレスは <http://www.pref.shimane.lg.jp/nogyogijutsu/byougaityuu/>  
(農業技術センターのアドレスは <http://www.pref.shimane.lg.jp/nogyogijutsu/>)

3) 最新の農薬登録状況

独立行政法人 農林水産消費安全技術センターホームページには、農薬の登録や失効に関する情報、農薬登録情報検索システムなどが掲載されています。

農林水産消費安全技術センターのアドレスは <http://www.acis.famic.go.jp>

**農薬の安全使用の徹底を！**

- ・ 農薬の使用基準（適用作物、使用量又は濃度、使用時期、総使用回数）を遵守する。
- ・ 防除履歴（使用日時と場所、作物名、農薬の種類と量）を記帳する。
- ・ 農薬散布時には周辺作物に飛散（ドリフト）しないように注意する。
- ・ 水田で使用する農薬の止水期間を守る。
- ・ 有効期限切れ農薬は使用しない。
- ・ 散布後は散布器具の洗浄を徹底し、空き容器は正しく処理する。
- ・ 病害虫の発生状況を把握し、必要最小限の農薬使用に努める。

島根県病害虫防除所  
(島根県農業技術センター 資源環境研究部 病虫科)  
〒693-0035 出雲市芦渡町2440  
TEL 0853-22-6772  
FAX 0853-24-3342  
e-mail boujyo@pref.shimane.lg.jp